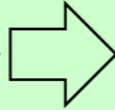


地域農業の維持継続と6次産業化の取組

～ 農事組合法人 町井アグリフレンド・ファーム ～

経営体の概要

法人化前：平成26年度
 基幹作物：飼料用米、大豆、ハトムギ
 経営面積：借地13.5ha



現在：令和2年度
 基幹作物：水稲14.9ha、飼料用米9.6ha、大豆1.7ha、
 ハトムギ2.0ha、乾燥トウモロコシ0.2ha、えだまめ0.2ha、
 菜園2.1ha
 経営面積：借地34.7ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成8年から地域農業の維持継続のため地域の30～40代が基盤整備の必要性を感じ、ほ場整備事業を推進し平成22年に事業が完了した。平成16年のほ場整備を契機に効率的生産活動等を行う目的で集落営農組織を設立した。その後、更なる発展を目指し平成27年に法人化した。法人は、事業による安定した用水供給と生産効率のよい区画や汎用性のあるほ場を活用し、農地中間管理事業による農地集積を図ることで、水稲と転作作物の栽培を実践している。また、米・大豆等の地場農産物を活用し6次産業化に取り組んでいる。

営農改善のポイント

① 経営規模の拡大

法人は、事業により整備された生産基盤を活用するとともに、農地中間管理事業を活用して集落の約9割の農地を集積し、水稲生産を中心として、大豆、ハトムギなどを栽培。経営面積を13.5haから34.7haに拡大している。

② 栽培技術の確立・向上

法人では、水稲、大豆、ハトムギのブロックローテーションを行い、農地の有効利用を行っている。大豆栽培では、除草・培土の徹底により、設立当初の100kg/10aから250kg/10aに増収している。また、ドローンによる防除を試験的に委託しており導入を検討している。

③ 流通・販売の工夫

法人では、地場農産物を活用した独自の商品開発を行うため、県内外の組合活動や活性化施設等を視察、話し合いと試行錯誤を重ね、3年の開発期間を経て「米粉パン」を商品化した。この米粉パンは、地域の直売所、道の駅、スーパーやイベント等で販売している。また、新規に導入した乾燥トウモロコシは、雑穀米の一種類として乾燥処理をしJAに出荷している。



乾燥トウモロコシの栽培



ドローンの試験防除(委託)

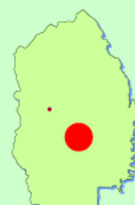


米粉パン調理室

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市：北上市、花巻市
 受益面積：2,504ha
 事業期間：平成20年度～平成27年度
 事業目的：用水改良
 主要工事：取水施設1箇所、用水路5路線、用水管理施設

位置図（岩手県）



猿ヶ石川

<問い合わせ先>

東北農政局
 農村振興部農地整備課
 電話：022-263-1111
 (内線4460)

(令和2年度調査時点)